

令和5年度 第1回 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和5年8月18日（金） 9時59分～11時19分
- 2 場 所 大佛次郎記念館会議室
- 3 出席者 富岡 幸一郎 委員、古本 悦子 委員、八ッ橋 治郎 委員、米本 良子 委員
- 4 欠席者 中村 美帆 委員
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none">1 委員長の選任2 定足数の確認3 委員会の公開・非公開4 議題：令和4年度業務評価
議事・委員意見等	<ol style="list-style-type: none">1 委員長の選任 委員の互選により、八ッ橋委員を委員長に選出した。2 定足数の確認 委員数5名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。3 委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「議題：令和4年度業務評価」の審議については公開とした。4 議題：令和4年度業務評価<ol style="list-style-type: none">(1) 評価関係資料について<ol style="list-style-type: none">ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、令和4年度の文化事業、施設運営、施設管理及び収支決算などについて、実績及び自己評価についての説明があった。ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。(2) 指定管理者へのヒアリング、評価・改善点の説明 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容（評価する点、更なる取組を期待する点）の説明を行った。

ア 「I文化事業」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者）

- ・没後50年の出版に向けて書籍の編集を進められたとのことですが、具体的な実際の編集作業はどのような内容なのか。
- ⇒ 翻刻作業を全て記念館で行った。その翻刻の原稿を基に解題を御執筆いただく先生に送り、先生方と御相談しながら項目をピックアップし、分担して注記などの執筆をした。今回、人名索引を作っており、それは記念館が担当した。
- ・編集作業費用は出版社からいただいているのか。
- ⇒ 著作権継承者と編者である当館に対して、著作権の使用料が発生するという契約となる。大佛次郎作品を世に出したいという使命の下に当館から出版社へと働きかけて出版をした。当初の役割分担から、編集、翻刻に関しては当館が実施という前提でつくったものになる。
- ・デジタルアーカイブについて、検証・調整しながら本格的に流し込んでいくという状況について、教えてほしい。
- ⇒ データが紙やエクセル、エクセルになっているものでも項目がカテゴリーごとに異なっているなど様々な形で保管がされている。昨年1年間の準備の中ではそのデータベースを作るに当たって共通の項目の構成を検討し、ふさわしいデータベースを選択し、現在クラウド上で仮の状態で作ったベースの準備ができた。令和5年度は実際にそのデータを流し込むという予定。著作権の関係上、画像が公開できるかという判断も今年度行う。
- ・公開はいつを予定しているのか。
- ⇒ 現在のホームページ上でも画像はないが、所蔵作品のリストは見る事ができる。今年度を目標に新しいデータベースでの公開を進めていきたいと思っている。毎年特別資料整理期間を使い整理を進め、少しずつ蓄積していくという計画となる。
- ・他機関との連携が進んだとあるが、特別な働きかけや活動を行った結果なのか。
- ⇒ 今年が大佛次郎没後50年ということで、それをきっかけに連携を深め、没後50年という冠をつけた展示をほかの館で協力実施するという働きかけを行った。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・「南方ノート・戦後日記」出版に当たり、働きかけも含め、編集・翻刻に関して文学館で担ったことを高く評価したい。
- ・特別資料整理期間を活用した資料調査でデジタルデータ化が進められ、収蔵美術品の修復など貴重な資料や収蔵品を後世に残す取組をされたことを大変評価する。
- ・大佛作品の新刊復刊、重版合わせて5冊、また漫画作品の単行本2巻が刊行され、大佛作品に触れる機会を増やしたことは大変評価できる。

- ・大河ドラマと関連付けた展示、多くの人が興味を持つような企画がたくさん行われたとは大変評価できる。
- ・記念講演会の来場者数が目標を大幅に上回ったことを評価する。
- ・観覧者について、目標と実績が近い数字であったことを評価したい。
- ・SNSをはじめインターネット上の発信に力を入れたことを評価する。

【更なる取組を期待する点】

- ・デジタルデータ化をより参照・活用しやすいシステムで構築していただきたい。
- ・ホテルやほかの施設でも大佛次郎記念館のちらしを目にすることが増え、それら連携の成果がでてくるのではと期待している。
- ・SNSはタイムリーなものに敏感なので、意識しながらファン層を広げていてほしい。
- ・記念館の場を活用した催事が継続的に実施されることを期待する。

イ 「Ⅱ 施設運営」及び「Ⅲ 施設管理」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者、「➡」は市）

- ・和室・会議室の利用率の目標設定が低いのは。

⇒実績を基に提案の段階で利用率目標を出しているので設定は低いが、昨年度は特に会議室の利用率が高く、令和8年の最終年度の目標値をすでに達成したという状況となる。

- ・築40年を超えているので、館の全面的な改修工事など、中長期的な改修計画について伺いたい。

➡計画的に点検をしながら施設の運用をしていくという状況の中で全市の古くなってきた施設をどうするか計画を立てる機運がやっとなってきたという状況。検討状況などは委員会の場で共有できるようにしたい。

⇒市との連携の中で、毎年大きな工事もいくつか入れて保全している。日頃の小破修繕も頻繁に起きているので、細かいものでも報告し共有することで連携を取って進めている。

- ・夏場は会議室の利用率が落ちているという話があったが夏場の対策について何か考えているのか伺いたい。

⇒夏の暑さが厳しい時期になると人が減るという傾向がある。冬場も同様の傾向があるので、ねこ写真展を入れたということがあった。夏場の対策も今後考えていきたい。

- ・ポストカードプレゼントについて、SNSで反響があったとあるが具体的な内容は。

⇒「いいね」の数が多かったので、注目してくださったと肌で感じたので書かせていただいた。

- ・今後同じような企画を実施する予定は。

⇒今年度に入ってから、実は実施している。開館記念日とその翌日の大佛次郎命日の2日間、今の展示イラストのポストカードをプレゼントした。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・SNSを活用した広報活動などにより和室や会議室の利用実績が目標を上回り、多様な使われ方をしてきていることを評価する。
- ・サロンの装飾がいつ来ても大変美しく見ごたえがあり、映えるスポットになっている。
- ・施設の維持管理は適切な管理がなされている。
- ・職員やスタッフに対して各種研修が行われている点を評価する。

【更なる取組を期待する点】

- ・施設の全面改修を検討する場合、長期休館期間が長すぎるとその後の再開が難しいことも出てくるので、そのあたりも踏まえて検討を進めてほしい。
- ・多様な目的で和室や会議室を利用する事例が増えることを期待する。
- ・引き続き市と連携しながら施設の維持管理に努めてほしい。

ウ 「収支」について

(ア) 質疑（以下「・」は委員、「⇒」は指定管理者）

- ・収支決算書の説明欄に「財団職員の人事異動により、予算より517,000円職員人件費が増加している」とあるが、人件費をみると468,030円になっている。その差額はどこの部分を書かれているのか。

⇒財団職員人件費の決算が当初予算より517,000円増加しているが、職員以外のアルバイト・臨時雇用等も合算した当館の人件費決算では、468,030円のマイナスとなった。

- ・協賛金等非常に多く獲得できた理由は何かあるのか。

⇒コロナ時期であったことからコロナから回復するための助成金が多く出ていた。文化庁のAFF2は、大佛次郎記念館単体ではなく財団全体でいろんな施設の事業を合わせて出したものから大佛次郎記念館分ということでの配分や、市の音祭り・地域の文化芸術活性化支援事業へ応募して認められたという事情であった

- ・今後継続的に期待できるものではないのか。

⇒はい。令和5年度に関して、そこは悩みどころになる。

(イ) 評価

【評価できる点】

- ・収支バランスが良好ということの評価したい。
- ・補助金の獲得に向けて取り組んでおられたことを評価したい。
- ・光熱費の高騰に対し、市から適切な支援があったことは高く評価したい。
- ・自主事業の収入が予算より大きく増えて、各種補助金等を獲得したことを評価する。物価高騰の中、実質収支差額が7万6,585円のマイナスであったことは高く評価できる。

	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用収入が非常に活用されており、この点が継続的になされることを期待する。 <p>エ 「総括」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に様々な企画やアイデアを出し、新しい発信などの広報努力をされていることを高く評価したい。 ・大佛次郎という個人の記念館、文学館の維持運営は難しいが、大佛次郎という大きなスケールを企画やイベントに結びつけ、工夫されてそれが実現されており、大佛次郎を読んだことのない方も何か関心をもっていただけたところに記念館全体の努力・成果がでていると思う。 ・コロナ化や物価高騰など変化の大きい1年であって、今年度の没後50年の節目に向けて着実に活動の幅を広げられた。今読んでも普遍的な文章が多く、近隣施設との連携やSNSの活用、資料のデジタルデータ化などで色々な方の目に触れるようにしたら、現代の人にも作品の良さが分かってもらえるので、引き続き今年度の活動に繋げていってほしい。 ・もう少しお子さんや家族連れを取り込むようなイベントができれば、御家族で来ていただいたのちに大人になってまた来ていただけるというようなこともあるかと思う。今後もいろいろな取組で幅広い年代層の大佛次郎ファンが獲得できることをとても期待している。 ・デジタル化など基礎的な活動や研究を着実に進められていることを高く評価するとともに、建物の活用の実現が非常に進んできていることを実感している。 <p>5 まとめ</p> <p>本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを見直し、事務局で調整のうえ、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p>
<p>審議結果</p>	<p>「議題：令和4年度業務評価」について、本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。</p> <p>また、議事録については委員長確認後に確定のうえ、公表する。</p>